

REDEMPTION IN RED

YU-GI-OH ! VRAINS
UNOFFICIAL FAN BOOK



RYOKEN KOGAMI

×

TAKERU HOMURA

presented by
HAPIBERI



IN RED





尊
食べられないものは
あるかい？



都会とここじゃ
随分とご飯も
違うだろう
苦手なものが
あったら言うんだよ



アンケート
とってるの

穂村くんは？

給食の
好き嫌い
ランキング！

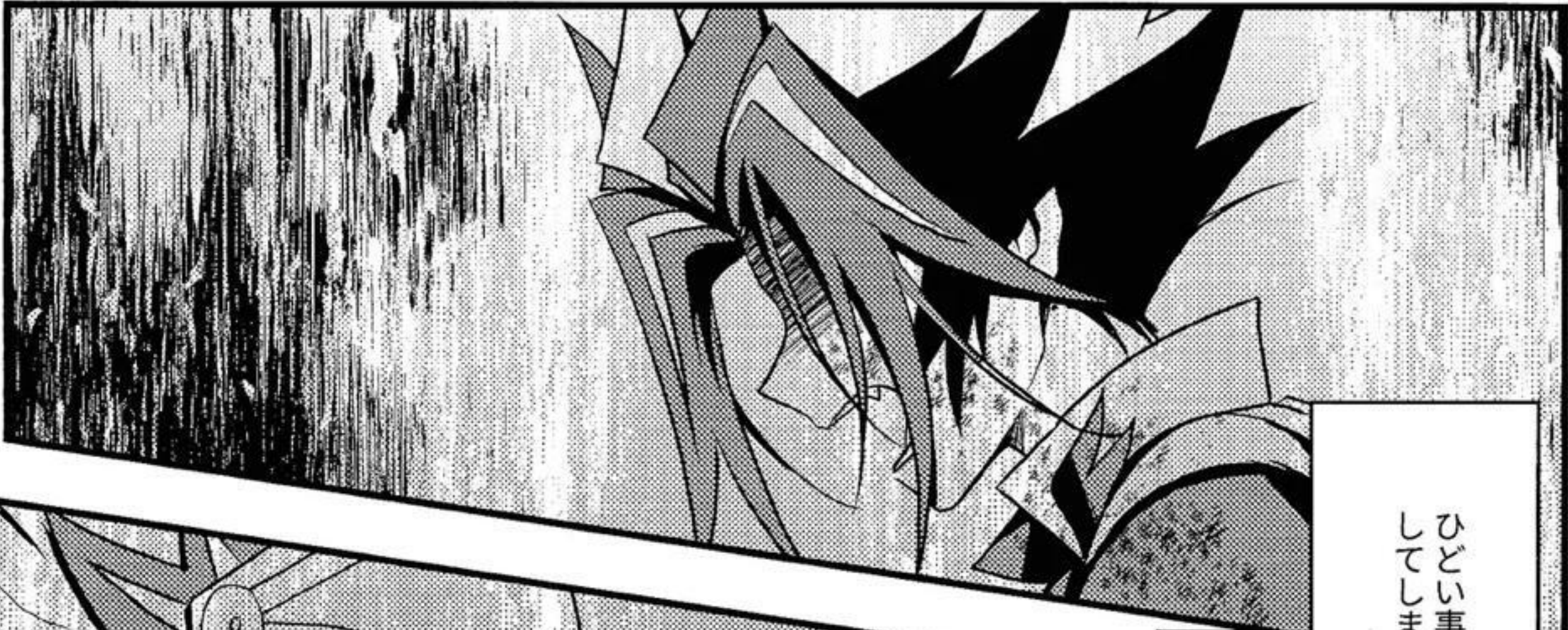


言えるはずがない
それが

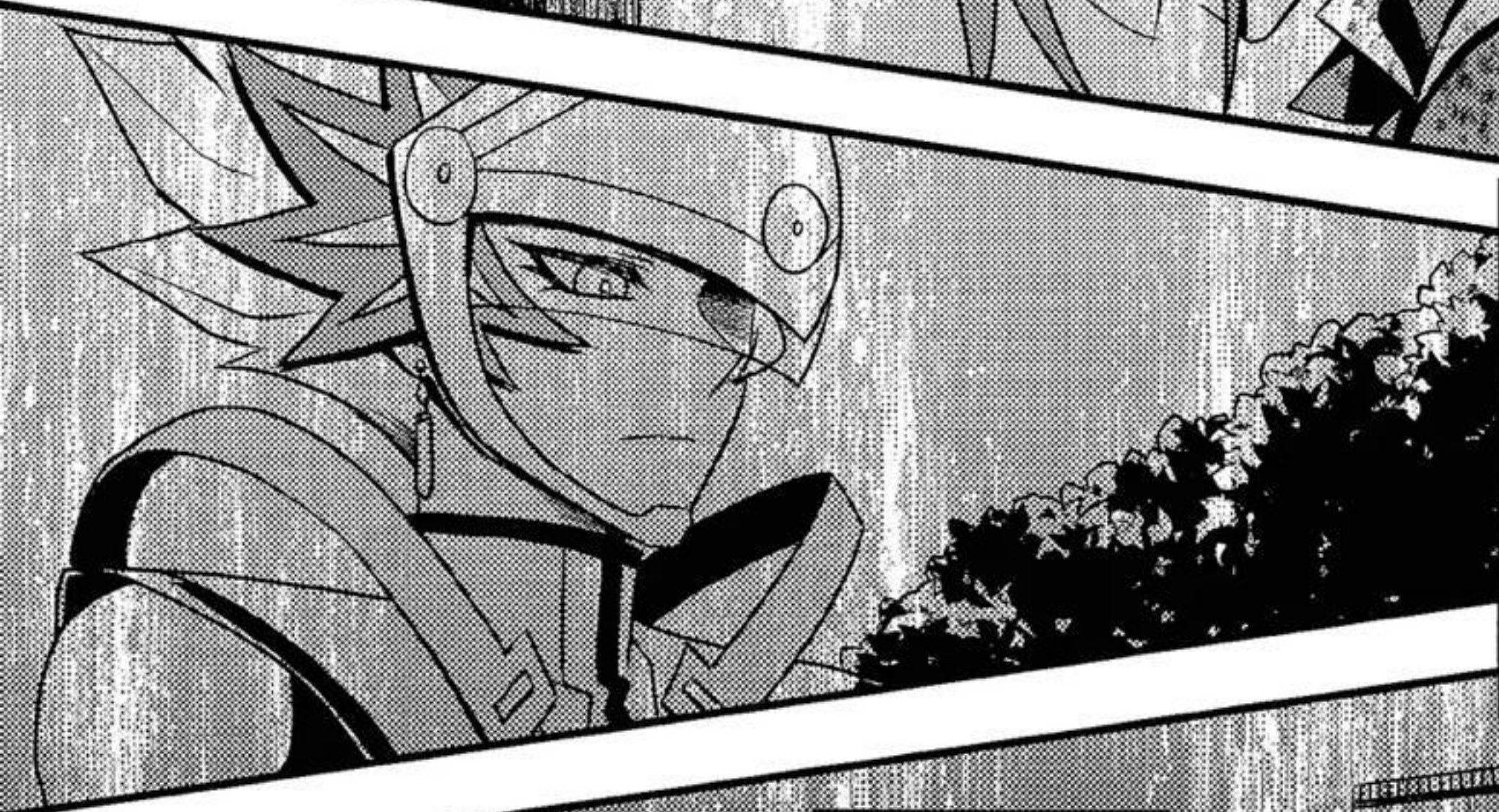
そんなの

ないよ……

亡き親に投げつけた
最後の言葉
だったかもしれないのに



ひどい事を
してしまった



二度と
会えない人たちに



どうやって
謝れば
良いんだろう

RED DEEP in RED



正気を失う術が 必要だった

記憶の箱を開けて
全部暴いて

歪みを直して
正しく思い出として
昇華するために

それは痛くて
怖いけれど

身体も痛くて
怖いから

紛れてしまって
都合が良い







親の仇と
恋人みたいなる
コトをしている

男なのに
女の真似事を
している



こんな状況じゃないと
言えないんだ

はあ



は……

あ……

ああッ
ズッ

お互いに
一応の好意は
あるはずだけど

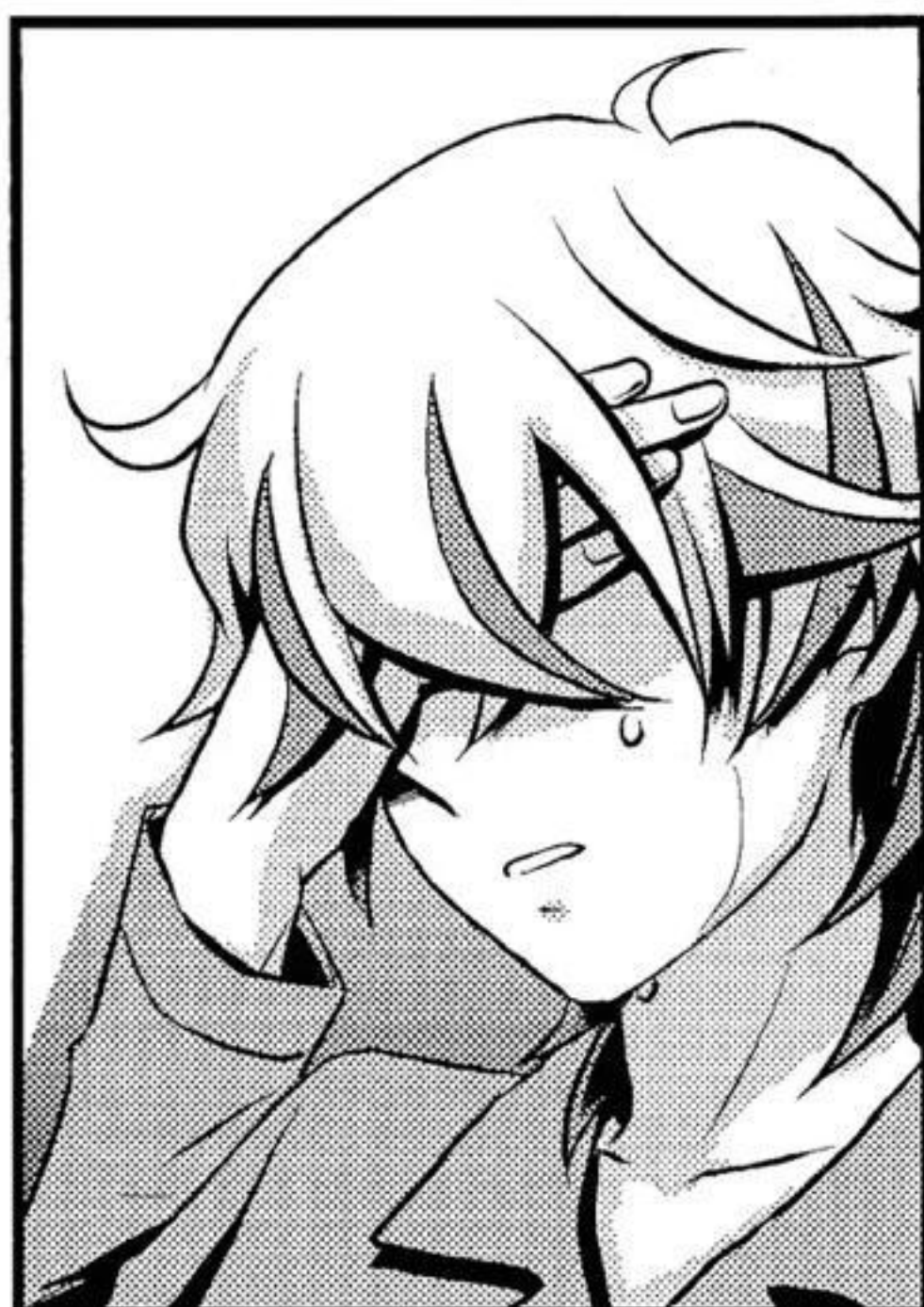
ズッ

どう考えたって
異常すぎる

まるで自分じゃ
ないみたい

ズッ
んあ

我ながら
面倒くさい話



おれ……
ぼく

ぼくは
ほんとは

きれいな
たべものがあって

なんだ



そうか



トマトが……
だめだったんだ

おおきいやつ





病院からあの家に
連れてこられて……

最初のご飯の時に
嫌いなものは無いかって
訊かれたけど

何も言えなかった

学校でもそう……

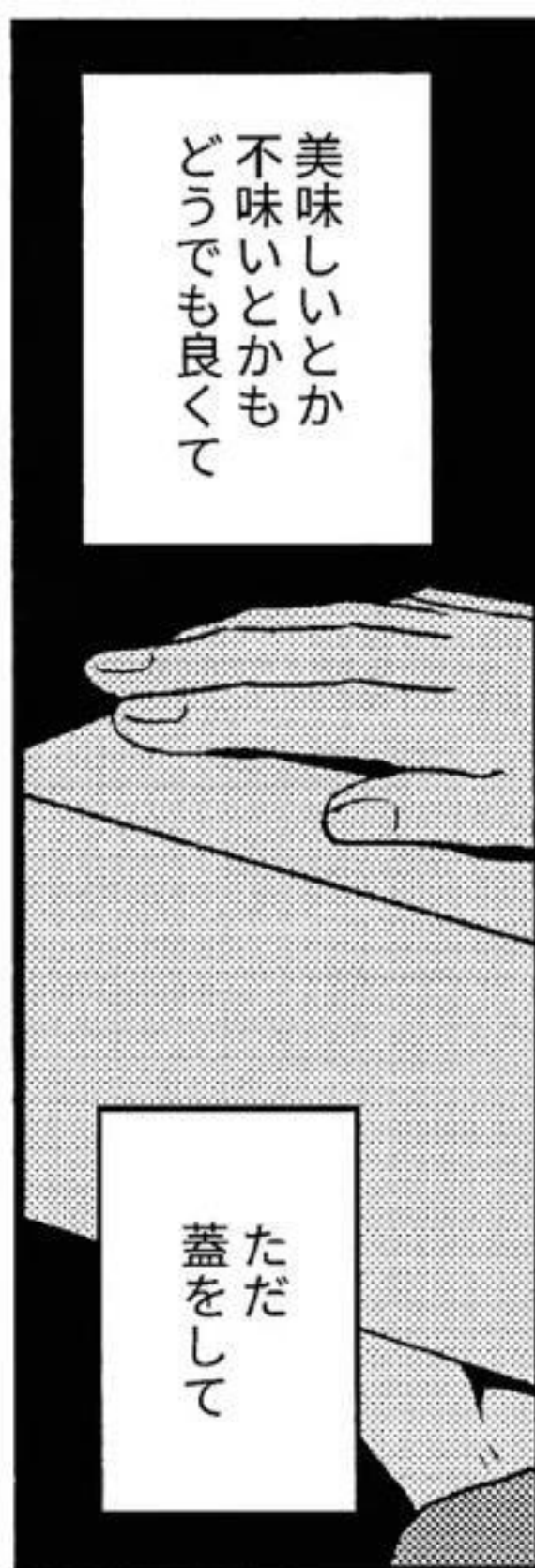
それがあの言葉
だったかもしれない
って思ったら

言うの
怖くて





自分の中で
無かったことに
しようとしてた



美味しいとか
不味いとかも
どうでも良くて

ただ
蓋をして



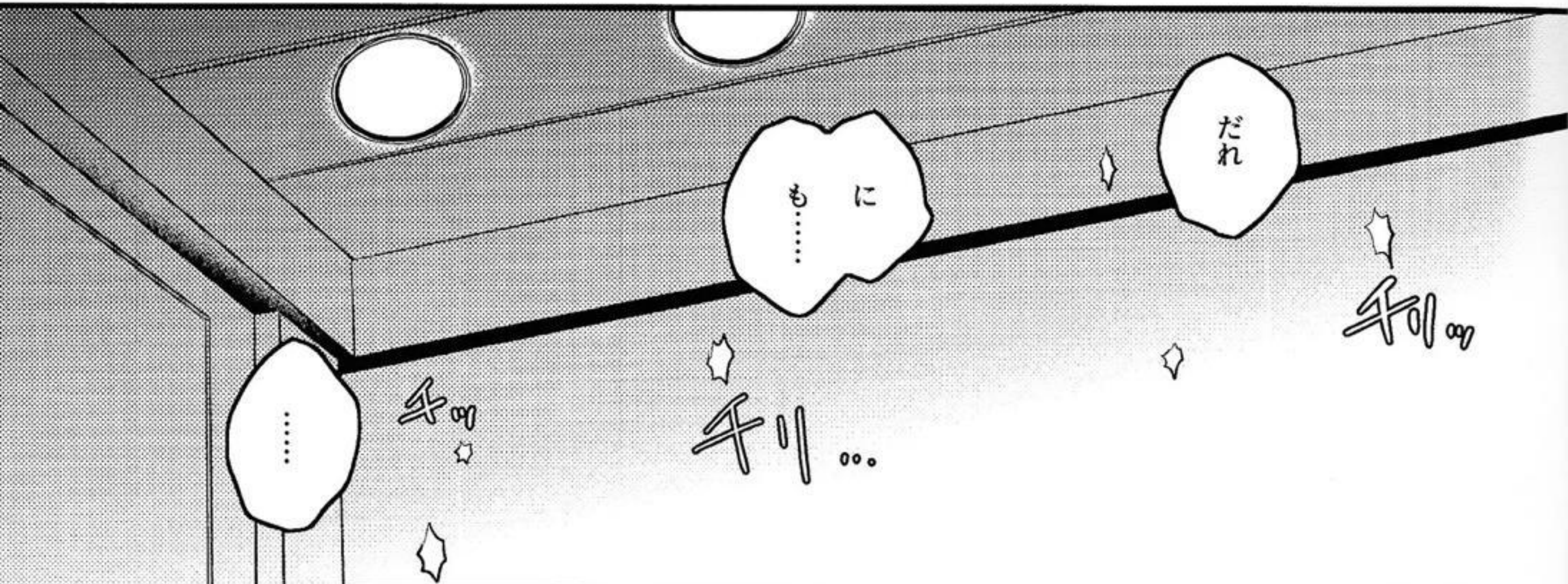
最初から
嫌いじゃなかった
ように装うのは
簡単だった

味はあまり
感じなくなってた



親がいなくなって
それを知ってる人は
ずっといないままだった

今は
お前だけだよ





あいつは
僕から生まれたから
全部知ってたのかな

どんなに
隠そうとしたって

隠したことを
忘れていたって
全部
お見通しだった



会ってすぐ
ご飯の時

嫌いなものでも
がんばって
食べてるんだな
偉いじゃないか
——って



それまで誰にも
ばれなかったのに

上から目線で
馬鹿にするみたいに
褒めて

でも僕はそれが
嬉しいと思ってた

あいつ……

ふれ

穂村!!





お前にどれだけ
謝られても

僕は許すなんて
言えない

お前に謝ってほしくて
一緒にいるわけじゃない

僕は

穂村

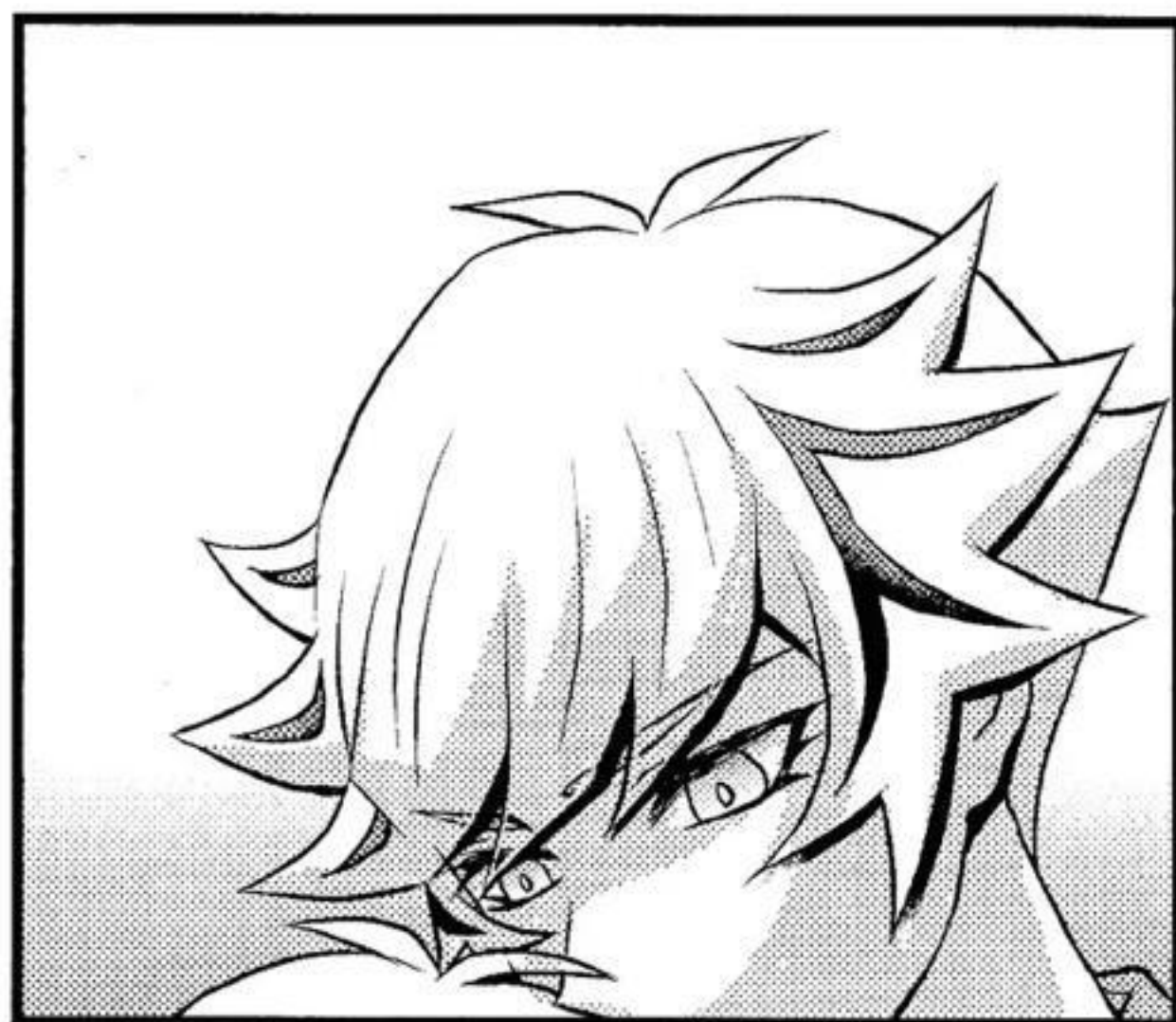
許されようとは思
っていない

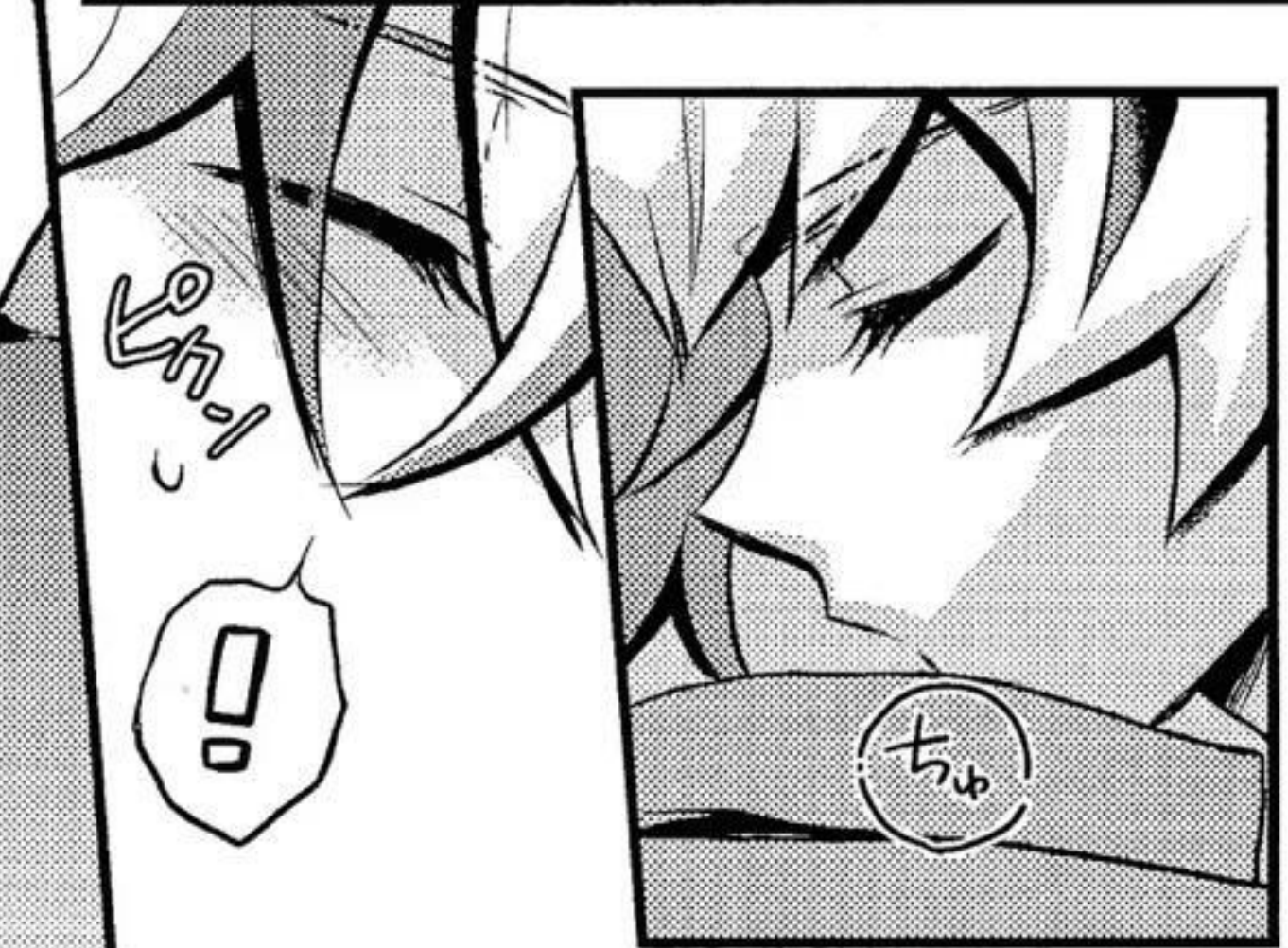
私は――

お前は謝って
楽になって

それが目的
なのかも
しれないけど









こうがみー

ばたばた

鴻上
冷蔵庫
開けていい？

ガタ

ああ
好きに開けて
適当に食べる

元気だな…

マジ！
ありがとう

やっぱ
一緒に作る？

……
構わないが
何を作るんだ

何って……
鍋に適当に
材料入れて

塩とか味噌
入れて煮たら
何でも
食えるだろ

正気か
お前……

せめて
これを使え
オートクッカー

なにそれ
？

お前でも
ヒトの食べ物
が作れそうだと
以前スペクターが
言っていた

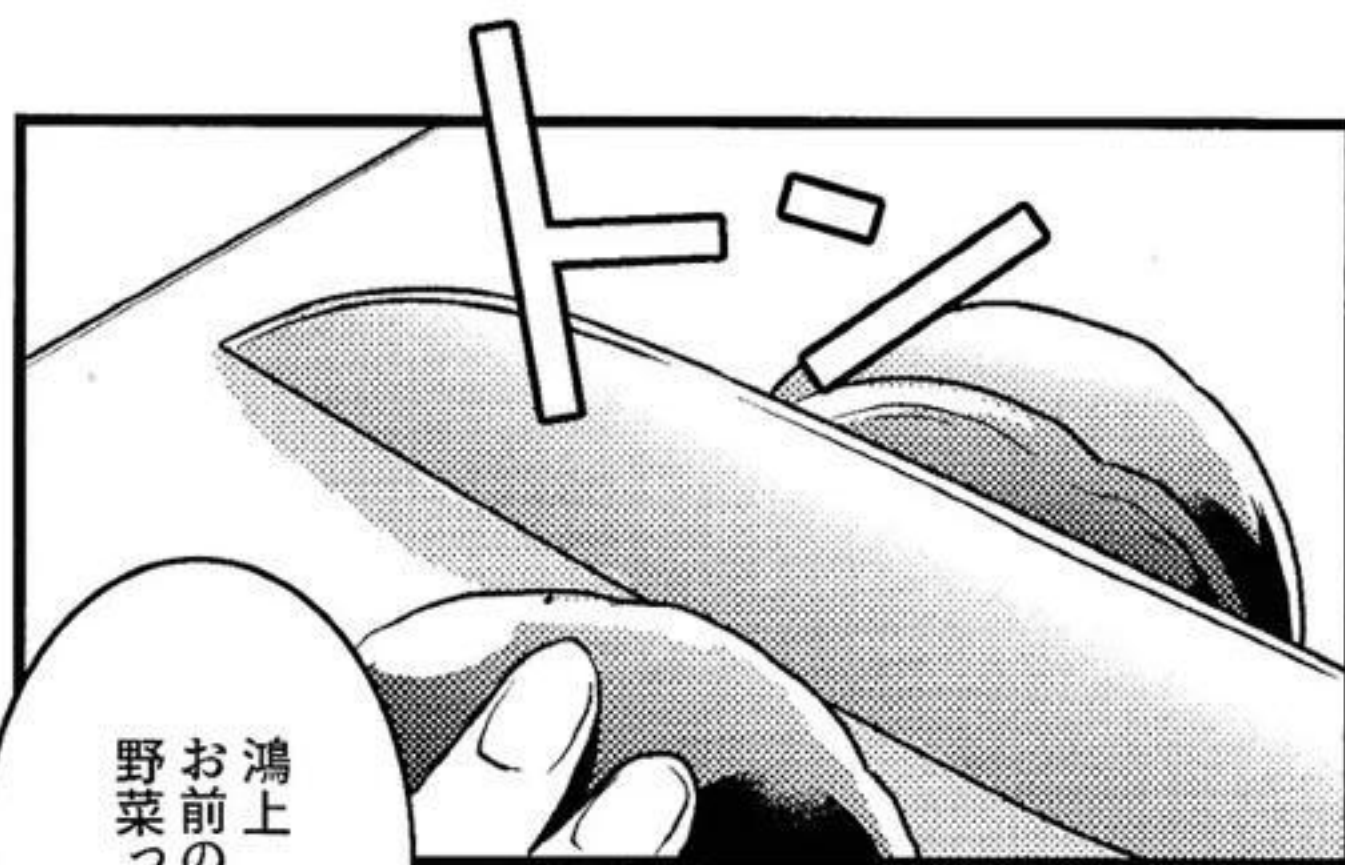
は*
*!?



嫌いな野菜
——というのは
無いな

あっても
自宅の冷蔵庫に
常備はしない

そりゃ
そうか



鴻上
お前の嫌いな
野菜って何？

あるなら
入れようよ
折角だし



好き嫌いが
無いなんて
お前らしいよな

そうは言っていない
嫌いな食べ物
くらいある

えっ
あるの？
なににな



……
お前も知っている

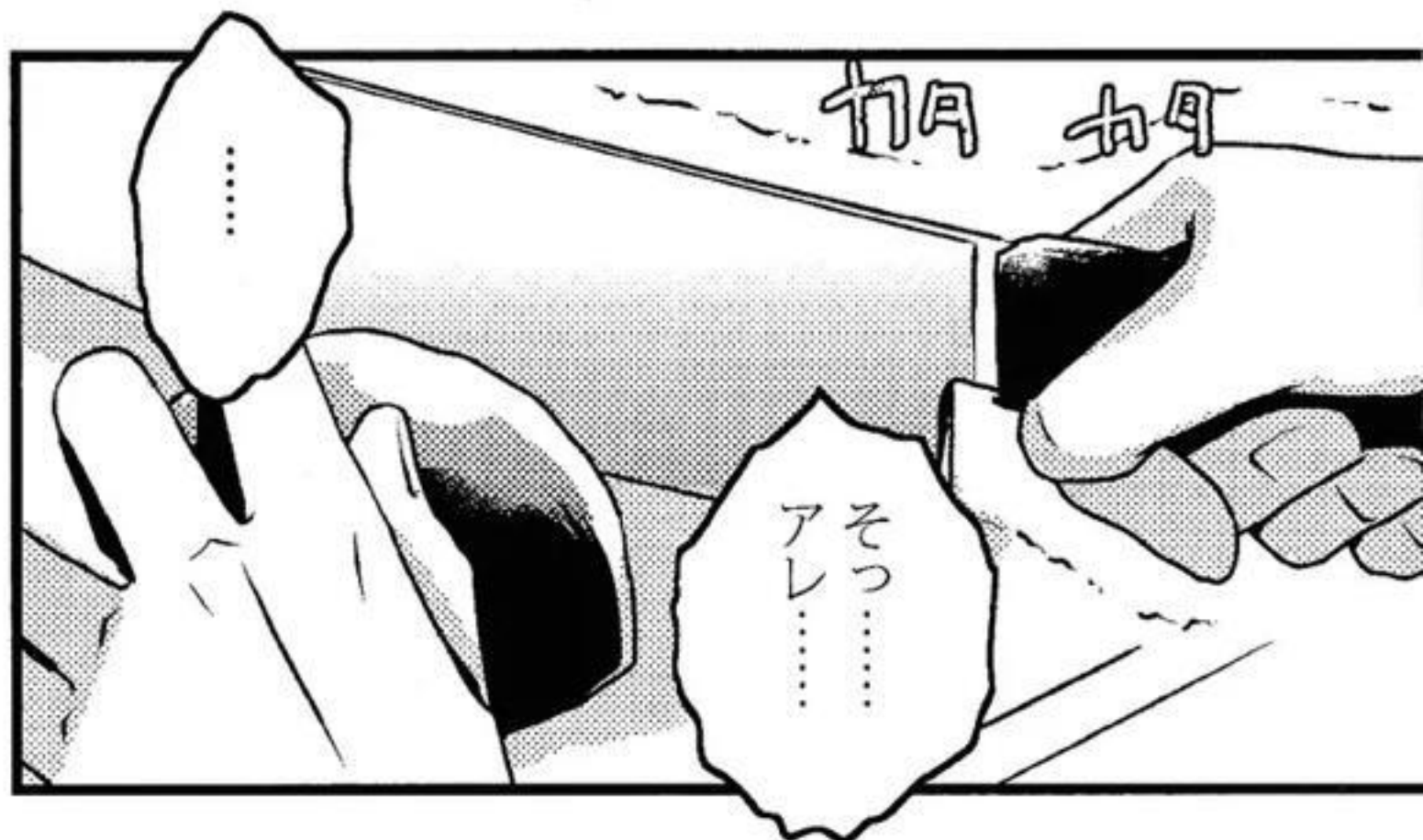
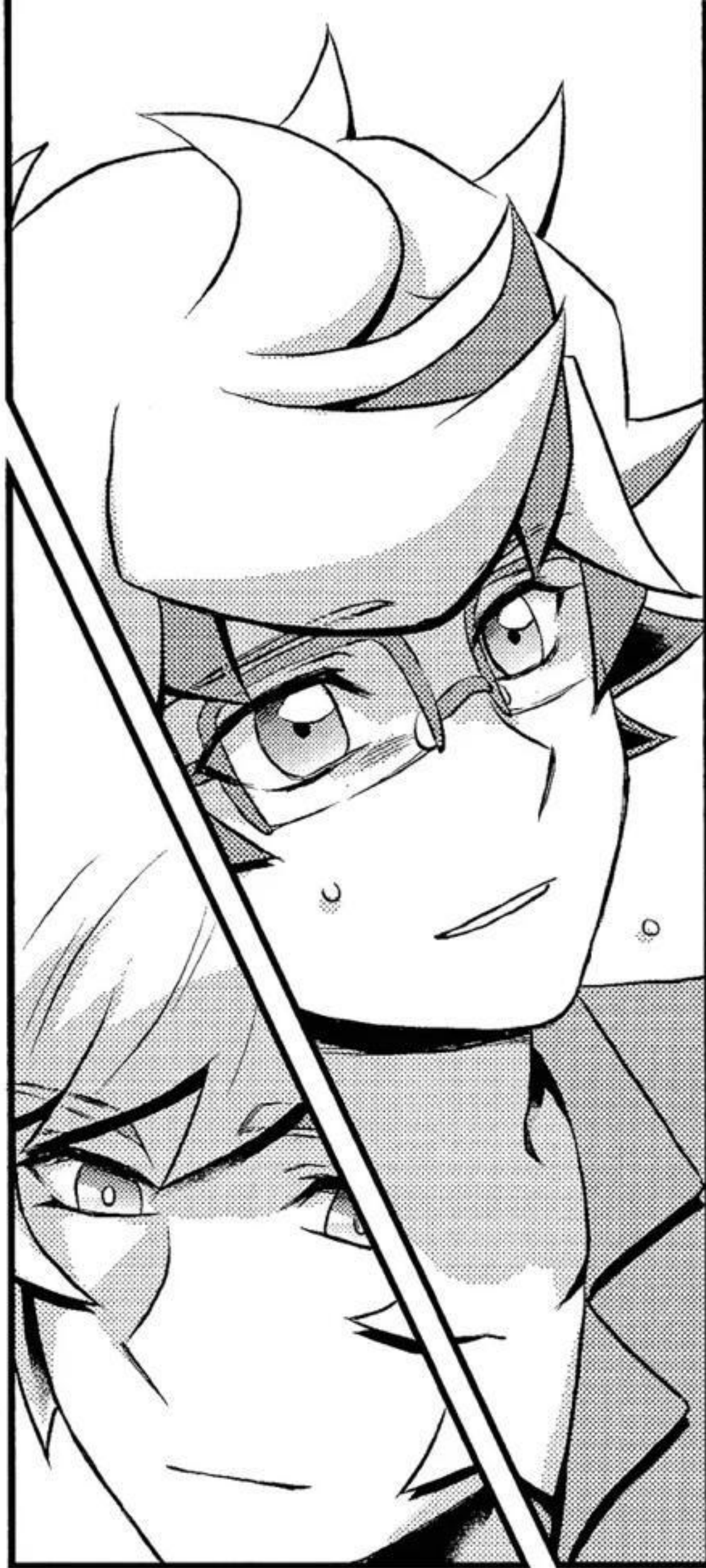
総合栄養
固形食



当時あの施設に
アレが山積
していたな

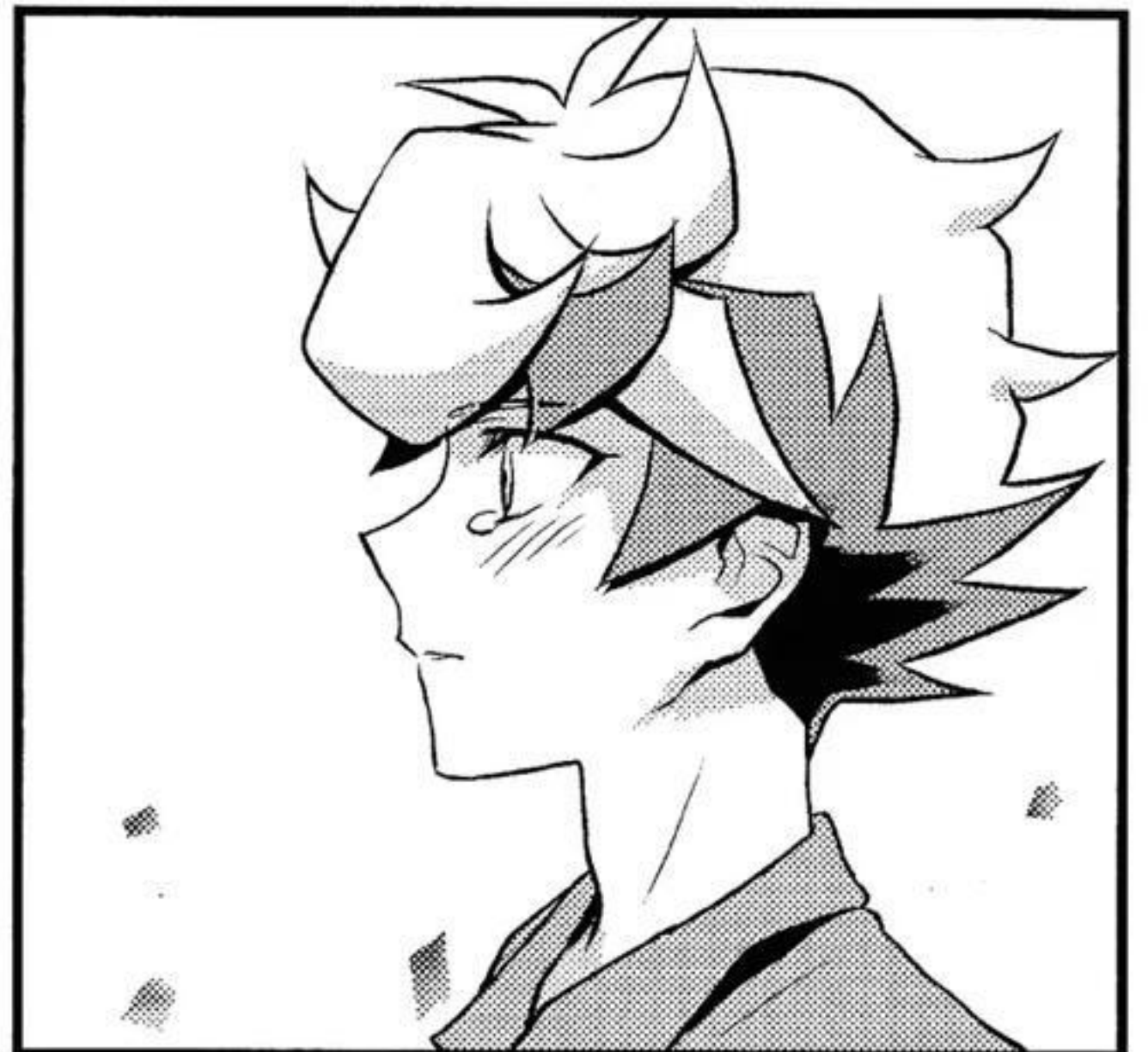
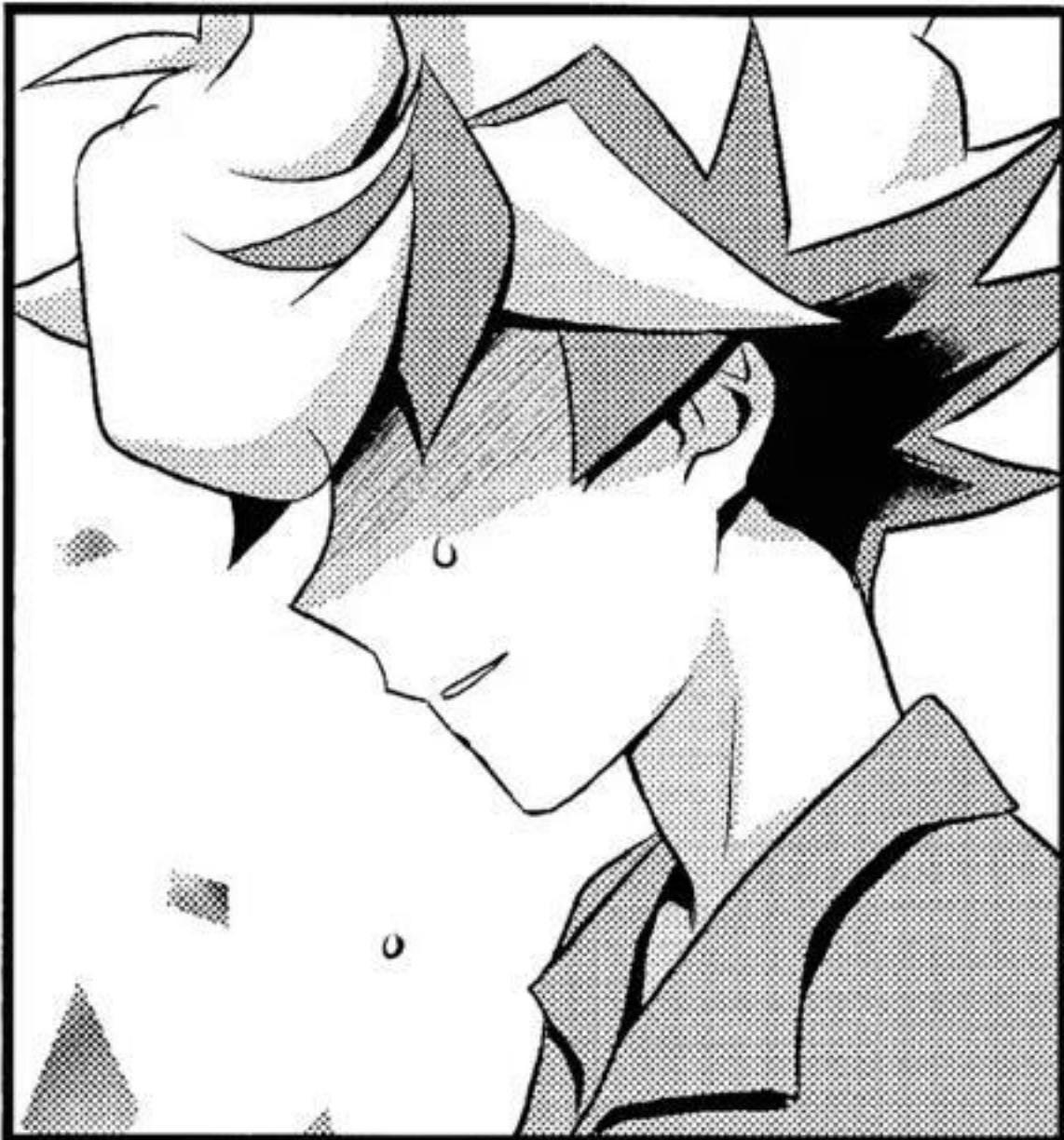
父が帰らない
三年間は
アレが主食だった











ありがとう

お前が
居てくれて
良かったよ



「Redemption in RED」

発行日 2024/07/07
発行 海乃/はぴべり
連絡先 umino926@hotmail.com
HP <https://hapiberi.dojin.com/>
X(Twitter) @hapiberi
印刷所 株式会社ポプルス

こんにちは。海乃です。多分5冊目の了尊本です。

今回はまた、ほむたけさんの記憶を抉りに……ではなくて。過去のトラウマ治療話のつもりで描きました。最初のだ尊本3冊と微妙に繋がってますけども。えーまだやるのこのネタ！？って感じですけども。了見さんに介護させて申し訳なさMAXですけども！！でもこれが本当に最後なので許されたい……。一応、最初に考えたときにここまで一気に浮かんで居たんです。描くのに1年半かかったけど。

さて、作中のソバさんの台詞を抜粋します。

「ひどいことを親に言ったんだ。

たぶんメシで嫌いなモンが出てきたとか、勉強しろってうるさいとかそんなことだったと思う。

だが情けないことに恐怖に怯えてた俺はそのあたりの記憶がすっぽりと抜け落ちちゃったんだ」

はい、完全燃焼のアレです。「教えて！リボルバー先生」のシーン。

「え？ソバさん嫌いな食べ物あるの？」

って思いませんでした？私は思いました。

元気・体育系のキャラって何でもぱくぱく美味しそうに食べる印象があって。

ソバさんもお肉大好き、野菜もまあまあ、とにかく幸せそうによく食べる！！っていうイメージだったんですけど、ここで印象変わったんです。

よく想像される「何でも食べる元気キャラ」はあくまで理想像で、あんな事件が起こる前、本来のほむたけさんは苦手な食べ物があって。それが原因で親と喧嘩したとしたら。

事件に巻き込まれて親と死に別れてしまったことを悔やんで、ワガママを言わない理想像の通りに生きていこうとしていたとしたら。

——そういう妄想を煮詰めたのがこちらの本になります。

キャラの一言から妄想を膨らませて本にしちゃう、それが同人活動ってやつ。

食べ物じゃなくて勉強が原因だったのかもしれないですけど、6歳、年長～小学1年生の勉強って……せいぜい一桁の足し算・引き算・ひらがなくらいですよ。喧嘩になるかなあ……（ほむたけさんは自分の家の住所も言えるくらいだから親は割りと教育熱心な可能性も高いけど）

まあ食べ物の線が濃厚ってことにしておきました。

私個人は嫌いな食べ物がほとんど無いので、好き嫌いで親と喧嘩した事も無く、仕方ないので「小学生」「嫌いな野菜」で検索しまして。ゴーヤとか唐辛子とか春菊、ししとう……そんなん一般家庭でたくさん出ないでしょ！これ食べなくても叱られないでしょ！っていうのを除いて、トマトが割りと上位に来ていたので採用しました。トマト可愛いし。

嫌いな食べ物を食べられるようになって過去を過去のこととして流せるようになると良いね。

そんな思いをギュウーと込めたつもりです。

テーマがテーマなのでほむたけさんを幼児退行させてしまった。本当はもっとカラッとしているだろうに、なんだか駄々っ子みたいな嫌な奴にできてしまっただけ。

サブテーマは「鴻上了見は謝らない」です。露伴先生ふう。

いや、本編でリボさんが接待決闘をしようとしてソバさんを怒らせるシーンがあるじゃないですか。

でもあれ、仮にリボさんが「ごめんなさい」って頭を下げたとしても、ソバさんは怒りの拳のやり場が無くなるだけでどのみち苦しかったよなと思って。

結局、完全燃焼みたいな本気決闘をして、ソバさんの気持ちを全部吐き出させる以外に気持ちの消化方法は無かったんだけど、あれはあれで「乗り越える」課程であって「謝罪」とは違うよなと。

じゃあ結局、ほむたけさんの本心としては了見さんに謝罪して欲しくは無かったって事かもしれないなと思ったのでした。怒りや悲しみを受け止めて欲しかっただけで。

まあ博士が死んでいる以上、その息子だといっても本人じゃ無いのだから、謝罪してもらいたい事なんか無いよって話でもあるけれど。

リボさん側としても、ロスチルに対して負い目はあるけれど父親の所業を「完全な過ち」として認めてはいないので（間違った手段だけれど考え方は正しいと思っている）、あまり謝りたくないだろうなという気がしますね。そう言いつつ、「謝ってはいけない」を表現したくて謝らせちゃったけれど。

謝らないまま、許されないままの状態を保ちつつ、一方でお互いに支え合いながら強く生きていって欲しいな～というのが、私の了尊&リボソバへの願望でした。

次はもっとお気楽な内容を描きます！ひたすらにお気楽ラブラブ道中描くんだ～描けたら！

また機会がありましたらよろしくお願いします。

メッセージいただけると
うれしいです！ ⇒



REDEMPTION IN RED

YU-GI-OH ! VRAINS
UNOFFICIAL FAN BOOK

RYOKEN KOGAMI

×

TAKERU HOMURA

PRESENTED BY UMINO/HAPIBERI
20240707

